

信濃川 水辺の楽校つまりっ子ひろばの水生物



クロマダラカゲロウ

(マダラカゲロウ科)

体長約10mm。山地の渓流やきれいな平地の渓流に生息している中形のマダラカゲロウ。石の下や石の間の落葉などに多く見られる。



フタマタマダラカゲロウ

(マダラカゲロウ科)

体長約14mm。山地や平地の渓流の平瀬に生息する大形のマダラカゲロウ。流れの速いところから、少し外れた岸よりの石の間に多く見られる。



エルモンヒラタカゲロウ

(ヒラタカゲロウ科)

体長約12mm。上流から下流の平瀬に見られ、生息量の多い中形のヒラタカゲロウ。指標生物となっており、水質階級はI(きれいな水)。



チラカゲロウ

(チラカゲロウ科)

体長約18mm。山地や平地の渓流などに生息する大きなカゲロウ。幼虫は流れの速い場所を好み、石につかまり、流れてくる有機物を食べている。



ウルマーシマトビケラ

(シマトビケラ科)

体長約14mm。山地や平地の渓流、平地の平瀬に生息するシマトビケラ。口から出した絹糸で石と石の間にネットをはり、有機物を捕まえて食べる。



コガタシマトビケラ

(シマトビケラ科)

体長約7mm。河川全域に見られ、幼虫は平瀬の石やコンクリート護岸に砂粒で巣をつくる。指標生物となっており、水質階級はII(少し汚い水)。



ヒゲナガカワトビケラ

(ヒゲナガカワトビケラ科)

体長30~40mm。河川に生息するトビケラでは、最も大形で個体数も多い。幼虫は河川の早瀬や平瀬に生息し、頭部が細長くなっている。



カミムラカワゲラ

(カゲロウ科)

体長約20mm。日本に分布するカワゲラの中で、極めて普通なカワゲラである。名前は日露戦争当時の海軍中將上村彦之丞の姓に由来する。



ナミウズムシ

(ブラナリア科)

体長10~20mm。浅い流れの石の上を流れるようにはい、やわらかい体は切れやすい。指標生物となっており、水質階級はI(きれいな水)。



ミズムシ(ミズムシ科)

体長約10mm。ダンゴムシに似ており、平地の河川の砂泥の多いところに生息している。指標生物となっており、水質階級はIII(汚い水)。



ヘビトンボ(ヘビトンボ科)

体長約60mm。幼虫は河川上流から下流にかけて生息し、大あごが発達している。指標生物となっており、水質階級はI(きれいな水)。



アミカ(アミカ科)

体長10mm以下で、小形のものが多い。腹部の吸盤で急流の岩などに吸着している。指標生物となっており、水質階級はI(きれいな水)。

**ウグイ** (コイ科) ♂

全長約30cm。淡水型と降海型とに分かれる。淡水型は川の上流域から河口域、湖沼などにすむ。川では主に淵にすみ、雑食性で、付着藻類や水生昆虫などを食べる。

**オイカワ** (コイ科) ♂

全長約15cm。川の中下流域や湖沼にすむ。雄は繁殖期になると体側に鮮やかな青緑色と赤色の婚姻色があらわれる。付着藻類や水生昆虫、底生生物などを食べる。

**コイ** (コイ科) 幼魚

全長約60cm。まれに1mを超えることもある。大きな川の中下流域、湖沼などにすみ、雑食性で底生生物、カワナ、イトミミズ、付着藻類、水草などを食べる。

**フナ** (コイ科) 幼魚

全長約25cm。フナはコイによく似ているが、口にひげがないことで区別できる。川の下流域や池沼などにすむ。雑食性で底生生物や藻類のほか、動物プランクトンを食べる。

**ニゴイ** (コイ科)

全長約50cm。大きな川の中下流域の流れのゆるやかな砂底や湖などにすむ。水質汚濁や富栄養化にも強い。雑食性で付着藻類や小魚、主に水生昆虫を食べる。

**タイリクバラタナゴ** (コイ科) ♂

全長約7cm。浅い池沼、河川敷のたまり、川や用水路のよどみにすむ。二枚貝に産卵し、産卵期の雄の体側にバラ色の婚姻色があらわれることが名前の由来。付着藻類や小形の水生昆虫を食べる。

**カワヒガイ** (コイ科)

全長約13cm。川の中下流域、用水路の水深1~3mほどの砂れき底にすみ、水生昆虫、小型巻貝、付着藻類を食べる。タイリクバラタナゴと同様に二枚貝に産卵する。

**カマツカ** (コイ科)

全長約20cm。川の中下流域、湖の沿岸、用水路の砂底、砂れき底に多くすむ。砂とともにエサを吸い込み、エラ穴から砂だけを吐き出す。驚くと砂にもぐり、目だけをだして隠れる。雑食性。

**ナマズ** (ナマズ科)

全長約60cm。川の中下流域、湖沼にすむ。上あごと下あごに一つずつのヒゲがあり、このヒゲで動くものを感知する。夜行性で、小魚やカエルを食べる。名前は「ヒゲがすべすべしている大きな頭の魚」に由来する。

**アブラハヤ** (コイ科)

全長約13cm。主に川の上中流域や池沼にすむ。雑食性で底生生物や付着藻類を食べる。うるこは小さく、油をぬったようにぬるっとした感じがする。

**モツゴ** (コイ科)

全長約8cm。川の下流域や湖、池沼、それに続く細流などにすみ、泥底のよどみに多い。雑食性で、底生生物や付着藻類などを食べる。

**タモロコ** (コイ科)

全長約10cm。川の中下流域、湖沼や池などのよどんだ水域にすむ。雑食性でユスリカの幼虫、イトミミズ、水草、ミジンコなどのプランクトンを好んで食べる。